

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 39 号

発行日
2024.11. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○10年目を迎える「教育協働研究所「岳陽舎」!

さて、私が、この「宜野湾市大謝名地区に引っ越してから、まもなく10年目(実質)を迎える!大学の職を辞す決意をして、長年住み慣れた公務員宿舎を出なければいけなかったの、あちこち終の棲家を探した結果(本当に探した!当時ののゼミ生達もかなり巻き込んだ?)、この地での再出発?となつたわけであるが、爾来、この自宅(建物だけを取得)を、「教育協働研究所「岳陽舎」」と名付け(事業所登録もして)、ほとんどが、2階書斎?での、PCを使った執筆活動であるが、ここまで続けてきた!毎日長時間の座り作業であったのが、目も足腰も弱つたが、お陰で(否、我が奥さんのお陰で?)、自分なりの納得の時間を、それなりに(こう言わざるを得ないが!)得ることが出来た!

ただ、今こうして、ここでの過ぎ去つた日々を思い返してみると、本当にこれでよかったのか?そんなことも思わないわけではないが(上空をオスプレー等が飛び交うことも含めて!目の前にある普天間基地の騒音に気がついたのは、不覚にも?住みだしてからである!)、何よりそうあつたことは事実であるので、それを後悔しても始まらない!人は、いつでもやれることしかやらないのである!ましてや、本質的にはズボラで、どんなところでも構わず生きていける私である!!

とは言え、書斎?と隣り合わせのベランダからの海(東シナ海)の眺望が気に入る、即決で(様々な借家を探し求め、やっとこのことであるが!)、この家に住むことを決断したわけであり、本当に、ここでの時間は貴重であった(救われた?)!そして、時折訪ねて来てくれる卒業生達との談笑も、有難いものであつた!これだけは、是非とも書いておきたい!

○米大統領選終わる!そこに、怪物がいた?!

マスコミ等の報道(予想)では、かなりの接戦となるということであつたが、昨日(6日)、米大統領選の結果が早々に判明した!一方の候補の返り咲きということであるが、私が密かに驚いたのは、その候補の圧勝ということではなく、そのことを予想(予言?)していた日本人が、少なくとも3人もいたということである(彼らは、メディアに登場する人物達であるが、最近では、あまり顔出しがない!)もちろん、そういうこと自体はどうでもよいのであるが、私が興味を持つのは、彼らが(他にも、同じような人がいたのかもしれないが?)、いつ、どこで、どのように、そのこと(その候補が圧勝すること)を予想(予言?)できる情報(あるいは感觸?)を得たのかということである!彼らに

は、共有する情報筋があつたのであるのか?否、そんなことはあるまい!!各メディアが報じる様々な状況の分析、独自の取材ネットワーク、そういうものがあつたということ、3人に共通しているかもしれないが、それにしても、今回の予想(予言?)は凄いい!まさに、怪物?である!!

単なる当てずっぽう?メディアを喜ばすエンタメ的振る舞い、あるいは自己の存在アピール(顕示欲?)、そういう要素があつたかどうかは、私には知る由もないが、少なくともかの3人は、他の多くのメディア演者(取り沙汰される情報を表面的に賑わす?)とは違って、現在のアメリカ社会の様相(そこにおけるマスメディアの性向?等を含む)を、冷徹に見据えてのものであつたのではないかと思つたりもした!!もし、そうであれば、彼らこそ、真のジャーナリストだと思ひますが、どうなのであろうか?

○自由と平等、保守と革新、その絡みについて想つ!

今更、こんなことを、しかも青臭く?述べることは、気恥ずかしさも覚えるが、今回は、少しは語つていてもよいであろう!!と言うのも、先般衆議院選挙も終わり、ほとんど変わることもないであろうと思つていた「JK政権」に終焉の兆候が現れ始めたからである(ただし、それは、内部崩壊というよりは、Jへの批判(鉄槌?)ということから生じてものであるが?)!

とは言え、今般の米大統領選のような「大政党制ではないこともあつて、その変化には、さほどのものはないであろう?しかし、これまでにないような局面が生まれているのも事実である(いくつかの政党的な駆け引き?)!もちろん、私には、それがどのようなふうになっていくのかは分からないが、そもそも、政治においては、いわゆる、社会における「自由」と「平等」を、どのように実現していくのかの大きな使命があるはずである?果たして、現在の各政党は、そのことをどのように受け止め、自らの独自性(存在意義)を發揮しようとしているのか(政党名は入り乱れているが?)?そこが見えない、見えにくい!!

しかるに、従来は、「保守」対「革新」というような対立軸で、そのことが分かるような状況にあつたが、今や、そのような対立軸も、実際には過去の遺物と化している?否、浮遊していると言つてもよい!何を守り、何を新しく生み出していけばよいのかは、それこそ社会全体の課題であるが、言葉遊びではないが、保守の革新とか、革新の保守とかというようにことさへ、あり得る!実は、それが、昨今の政党状況であるとも言える!!

そんな中で、各党(事実上は政権政党?)は、内政と外交の両面において、ますます複雑多様化する諸課題を、かの「自由」と「平等」という普遍的価値に則つて、如何に対処していくか?民主主義(国家)の危機とか、権威主義(国家)の横行とか、状況は深刻な方向に向かつていとも言えるが、その双方の価値を見失えば(換言すれば、おろそかにすれば?)、事態は、ますます混迷化していく!!頑張り、政治家!だが、やはり、彼らを選び、支えていくのが、国民(市民)の権利でもあり、義務でもある!まずは、そこから見通す必要がある!

(井上)

○結局は、人の「生」を、どのように論じるかでは？！

過日、面白い記事を見つけた。それは、「日本社会の『最大のガン』の正体：私が『ポスト・モダン』だけを語る人たちが嫌いだ」と題するもので、「熟慮や中庸といった精神的な姿勢の価値が回復されねばならない」とするものであった。作者のH氏（1972年生）は、2012年から福島県南相馬市で精神医療に携わる「〇〇メンタルクリニック院長」で、うつ病や自殺などについて精神分析学や社会病理から考察する論文を発表しているらしい（著書に『日本のナルシズムの罪』：「現代ビジネス」10月22日配信とある）。

私が興味を抱いたのは、彼が、「福島での原発事故の後に：南相馬市に移住してから、政治的な事柄について考えたり発言することが増えた。当初から自分のことをいわゆる『左派・リベラル』だと自認してきた。しかし、10年以上の年月を経て、次第に保守的な姿勢が強まった。今回はそのあたりの事情を説明したい」ということであつた。

私には、「モダン」も「ポスト・モダン」も、よく分からないが、そうした哲学？や歴史認識論議は、それを、個人の視点で捉えるか、社会（集団／国家）の視点で捉えるか、その違いは大きいのかもしれないが、大事なものは、そこで、「一人ひとりの人間の生をどのように論じるか」だと考えている！そして、その一人ひとりの人間が、自らの生をどう受け止め、そして生きてきたか（さらには死んでいこうとしているか？）！そこが重要なのではないかと捉えている！

なお、今回は、記事に対するコメントが、さらに面白かつた！もちろん、？なものもあつたが、それぞれの知識が素晴らしく、久々に知的好奇心がくすぐられた！本当に、ネット上には、知性豊かな人々がいるものである（ただし、その逆の人も多々いるわけであるが？）！やはり、「知」は大切なのである！

○ドジャース優勝！ただ、そこにいる怪物が眩い！

過日、大谷翔平が所属・活躍しているドジャースが、メジャーリーグ制覇を果たした！予想されていたのかもしれないが、そんな中でも、その通りに成就できたことが素晴らしい（戦力面では、ある意味当然？）！でも、私にはそのチームの優勝とかは、正直言つて、あまり興味はない！何故か、かの大谷翔平のプレーだけが目に留まるのである（最後の試合は、少し可哀そうであつた？）！同じ怪物？でも、「君には何も言えず！ただただ、見てて楽しい！そして、眩い！」、まさにそういうことであるが、その理由は、果たして何なのであろうか？

前にも書いたように思うが、彼は、本当に、プレー自体に興じている！否、彼は、「野球の妖精」ではないかとも思える（身体はでかいが！）！野球のこと以外には目もくれず、ただただプレーすることを楽しんでる？そんな感じである（もちろん、実際はそうではないであらうが？）！来季は、本来の二刀流に戻るのであらうが、たとえ成績自体は芳しくなくとも、その姿そのものが価値なのである！

- ＜短歌に託して予言や予感に誘われつつ＞
- ・ 悩みし日々 終わつてしまえば
それによし！ まだ続けど 一味違ふ？
 - ・ 予言か予想か？ メディアを嘲笑ももう
怪物いる？ ならば常に 正しく導け！
 - ・ 自由と平等 普遍的価値だが
そこが見えず？ 保守も革新も 心せよ！
 - ・ いい社会とは？ 己おれの生の意味
一人ひとりが 最期に語れる社会では？！
 - ・ 同じ怪物でも、君には何も言えず！
ただただ見て楽しい そして眩い

＜特別コーナー＞ 菅本彰夫の古代史旅枕 ⑨

○改めて、古代九州の全体像を探る―その10―
では、改めて、その「継体」勢力の、九州（筑紫）王朝からの分離・分立というのは、具体的にはどういうことであつたのか（記紀にいう「継体朝」ではないので、その説明は、真に難しいのであるが！）！実は、その事実は、かの「九州年号」↑「甲歴」から見出すことが出来る！なお、九州年号とは、当時の倭国（九州（筑紫）王朝／倭の五王時代）政権が制定していた年号で、しかもそれは、列島全体で施行されていたものである。その証拠は、既に多く見出されている！

それはともかく（でもないが！）、問題は、その創始の年号である「継体」である！その年号消されているものもあるようであるが！は、517年から521年までのもので、以下、「大化（645）（大長十三年）」となつていく。しかるに、同年号は、478年に即位したとされる「武」の後裔が、そこから39年自にして建元したとされるもので（その意味で、その後裔は、そこで新たな主統を意図した！）！宋（宋王國としないことか？）、その「継体」という元号名は、517年から始まる「新政権？」が、その前の政権を「継体」ということを示しているのである（何故なら「武」の即位年／478年を、その「新政権？」の淵源としているからである！）！！

では、改めて、その517年から始まる「新政権？」を樹立したのは誰か？おそろしくそれは「武」の後裔者ではあるが、しかし、正統な後裔者ではない誰かということになる！！（ここで思い出されるのが、528年に起こつたとされる「筑紫君磐井の乱」である！しかも、それは、実際は、515年であつたそうである（この頃の書紀の記述は、13年のズレがあるらしい！）！「兼置氏による」！！もし、そうであれば、その乱の解釈は、通説を根本的に覆すものとなる！！すなわち、この乱は、筑紫君磐井（兼置氏は本家九州王朝の王）が、近畿の「継体天皇」の命によつて、物部麁鹿火から滅ぼされたというものであるが、ここで言う「新政権？」を樹立したのは、他ならぬ、その物部麁鹿火ということになる！！（つづく）

（菅本）

＜編集後記＞ 様々なことが終わり（本当は終わってはいないのだが）、今は、来るべき次を、密かに見つけ出そうとしていようにも思う？ある種の「祭りの後の静寂」？否、「嵐の前の静けさ」？そんな感じなのかもしれない？季節外れの台風が、遥か南方海上を、複数で彷徨っている！大雨が、また来るとも！（井上／菅本）